

地域と鉄道の今後を考えるプロジェクト

目的

少子高齢化、人口減少社会を迎え地方の過疎化問題は深刻になっています。八王子地本管内でも、奥多摩町や山梨県内などでも人口減少に伴い、鉄道利用者の減少は必至です。しかし、学生や高齢者などの交通弱者にとって公共交通機関としての鉄道やバスは生活にとって欠かすことのできないものです。会社は利用者減少を理由に青梅線、五日市線、中央列車線の平日データイムの運転本数を削減してきており、減便によって利用者が減少し、地域住民が離れていくという悪循環が生み出されてしまいます。地本旗開きで行った講演：若桜鉄道「地域と密着した鉄道づくり」を教訓として、防災減災の観点や、地域の発展と鉄道のあり方を考え、将来を見据えた街づくりを地域と共にいかに創りだしていくのか検討していくために、地域と鉄道の今後を考えるプロジェクトを発足しました。

取り組み

○奥多摩町役場との意見交換会

奥多摩町の現状

1. 人口減少が起きている中、移住施策として、一戸建てを無償提供し、人口増加に繋げている。1年で300名増え、小学校も1学年20名⇒30名に増えている
2. 奥多摩駅とは綿密に関係を築いているが、JR東日本八王子支社との関係をもっと深めていきたいと考えている。
⇒前回のダイヤ改正で青梅～奥多摩間が30分間隔から45分間隔になった時、八王子支社から一切説明もなく、対策など町として対策をつくる事が出来なかった。
3. 防災の観点から、異常が起きた場合、奥多摩駅に観光客が滞留してしまい逃げ道がなくなってしまう。

○奥多摩町役場との意見交換会

組合の考え方

1. 奥多摩町は、定住人口増加に向けて具体的に取り組みをおこなっており、今後、流動人口増加に向けて、観光地（日原鍾乳洞・奥多摩湖・登山など）の活用を通じた鉄道利用者の増加を考えて行く
2. 地域住民が何を必要としているのか、住民の足である鉄道をどのように残すのか地域の方々の意見を聞きながら考える必要がある。また、災害時道路などが寸断された場合の鉄道の活用なども同時に考えて行く。
3. 災害時の避難場所として駅の活用を考える必要がある。その中で奥多摩駅2階にあるカフェの災害時の活用など、駅を拠点とした避難場所をどのように創るのかを地域の方々と検討していく。



奥多摩駅



奥多摩駅2F喫茶店

取り組み

○日の出町役場との意見交換会

日の出町役場のみなさんの意見

1. 観光はハイシーズンに限られるので、日の出町としては農地付き住宅の活用や補助金の給付などで定住促進に力を入れている。
2. 高齢者の事故が多発する中、免許返納の促進を行っており、コミュニティバスなどの充実・鉄道などの公共交通機関の重要性に注目している。
3. J R東日本の協力のもとパンフレットの作成、駅からハイキングの設定などを行い、観光地（日の出山・つるつる温泉）の活用で地域活性化していきたい。

J R八王子支社への要望

1. 五日市線減便・駅の委託化など、一切相談がなく、一方的に通告された状態である。減便により、他の交通機関を利用するようになり、鉄道離れが増大する事から、J R東日本からもアプローチしてもらい、地域活性化に向けて議論を深めていきたい。
2. 武蔵五日市駅での列車遅延の電車とバスの接続で数分遅れるとバスが発車してしまって、次のバスまで30分くらい待たなくてはいけないので、どうかしてほしい。
3. 利益を上げている首都圏を優遇するのではなく、再分配して五日市線など地域路線へ配分する事により、地域活性化につなげてほしい。

○日の出町役場との意見交換会

組合の考え方

1. 日の出町の観光地（日の出山・つるつる温泉・鹿谷（ろくや）大仏）など通じて鉄道利用者を増加させる。特に御岳山⇒日の出山⇒つるつる温泉のコースを中心に青梅線活性化にも繋げていく。
2. 高齢化社会に伴い、自治体では免許証の返納等が考えられており、公共交通機関の重要性が上がっている。その中で鉄道が市民の足として活用



鹿谷大仏



日の出町地域公共交通計画



つるつる温泉